

役・員・就・任・挨・拶

技術士としての 自覚と誇りを持って

この度、日本技術士会統括本部の理事会において、北海道本部長として承認された能登でございます。本部長就任にあたり、幾つかの懸案事項の内から会員の拡大と認知度の向上に主眼をおいて、挨拶を述べることに致します。

昭和33年の第1回技術士試験以来、これまでに7万7千人の技術士が誕生しております。そのうち日本技術士会の会員は1万4千人。およそ20%の入会率です。何とも嘆かわしい限りと言わざるを得ません。

入会率がなぜ低いのか。大きな理由は二つ、年会費2万円は高すぎる、入会してもメリットがない、というものでしょう。確かに他の学協会に比べて年会費が高い。検討の余地はある。しかしながら、年会費が高くても入会による目に見えるメリットがあれば、多くの方が会員になるはずで。では入会するとどんなメリットがあるか。実は実感できるメリットはありません。大事なことは、メリット云々ではなく、日本技術士会が何をしている団体なのか、それを理解することなのです。

詳細は省略しますが(HP参照)、(公社)日本技術士会は技術士資格の活用促進、社会的地位の向上、国内外の各種団体・組織との連携・調整、などを行っています。仮に日本技術士会という組織がなければ、これらの各種活動がないわけで、そうなると技術士資格はほとんど意味をなさない資格となっていたことでしょう。現在、入会率わずかに20%と低いながらも地道な活動を続けている日本技術士会という組織のおかげで、認知度は低いながらも技術士資格が重宝され、一定の地位が保持されているのです。

能登 繁幸 (のと しげゆき)

技術士(建設/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 本部長



人それぞれ個人的な事情があるでしょうから、必ずしも全員が日本技術士会会員になるべきだ、とは申しません。されど、技術士資格のお陰で幾分なりとも優遇され、社会的信頼と尊敬を得られているのであれば、技術士会に入会して当然ではないでしょうか。技術士としての自覚、誇りがあるのであれば、会員になってしかるべきではないでしょうか。

次に認知度の問題です。技術士の認知度が医者や弁護士に比べて極めて低いとよく耳にします。我々技術士のほとんどは、直接国民、市民と接触することはありませんから、認知度が低いのは当然であろうと思います。とはいえ、いろいろな形で、いろいろな場面で外部に向けて情報を発信し、社会に貢献する活動を行うことは、技術士さらには日本技術士会の社会的な存在感を高めるためにも重要なことです。ご承知の通り、北海道本部には六つの研究委員会があり、社会貢献を意図して社会に密着した積極的な情報発信を行っています。また、五つの地方技術士委員会があり、各地域において技術者交流、大学や高専への技術者養成の支援を行っています。今後ともこのような活動に多くの技術士が参画し、結果として認知度向上に繋がれば幸いと存じます。

北海道本部の当面の課題は、第40回日本技術士会全国大会(札幌)を成功裏に終わらせることです。是非とも会員は勿論のこと、会友、非会員の皆様にも参加頂いて、記憶に残る全国大会としたい、そして成功裏に全国大会を終わらせたい、と願っております。皆様のご協力、よろしくお願い致します。

終わりに、技術士としての自覚、技術士であることの誇りを持って、と叫んで挨拶を終わります。